



通信

HP 学校だより
R5. 7. 14
NO. 15
文責 伊藤美佳



ト、ト、トウモロコシが消えた！

2、3、4年生とひまわり学級の子どもたちは、ビオトープの畑で野菜や花を育てています。苗を植えて、水をやり、草をとり、野菜や花がどんどん成長していくのを楽しみに観察していました。

2年生は、キュウリ、トマト、トウモロコシ、ズッキーニ、カボチャ、スイカ・・・たくさんの種類の野菜を育てています。だんだん大きくなってきて、そろそろ食べごろ、収穫時！と思っていた矢先、「トウモロコシが消えた！」事件が発生しました。2年生の教室前に行くと、子どもたちが口々にこの事件について教えてくれました。「きれいに食べてあったよ」「全部なくなっていたよ」などなど、観察結果を教えてくださいました。そういえば、カラスが数羽地面近くで鳴いているなあと考えた日がありました。担任の先生が木の上に、トウモロコシのひげがあったことを目撃したと教えてくれました。「カラス」犯人説はこれらの状況証拠で確信となりました。しかし、人間がやったかのようにきれいに食べているカラスのすごさに感服するとともに、確か、去年の2年生もカラスに野菜を食べられてしまったことも思い出しました。

子どもたちにとってはここから学びです。カラスの頭の良さを実感することができたとしたら、自分たちの野菜を守るのにどうしたらいいのか考え、行動したり、農家の人たちの苦勞を理解し、どうやって守っているのか聞いてみたくなったり・・・。学びはこういったところでもどんどん広がります。

トウモロコシがなくなってしまい、落ち込んでいるかな？と心配しました。が、自分たちで作ったズッキーニを自分たちで料理し、おいしくいただいて大満足の様子を見ることができました。「自分たちで料理」とは、担任の指導のもと、材料を包丁で切ったり、ズッキーニの上にトッピングをのせたりすることです。中には「初めて包丁を持って切ったよ。」という子もいました。初めてのことで、果敢にチャレンジする姿勢がすてきだなと思いましたし、この経験が「自信」となって次の活動をしようとする力になると確信しています。長い夏休みには、ぜひ子どもたちに多くの経験をさせていただき、「自信があること」が増えることを期待したいです。「自信」は子どもたちの原動力だと思います。



自分の身は自分で守る

14日（金）に4～6年生が幸田町消防署の消防士さんを講師とし、着衣泳（衣服を着た状態で水に入る）を実施しました。夏休みに向けて、水の事故防止に対する子どもたちの意識が高まったと思います。

また、連日、暑い日が続いています。来週は、梅雨明けそして今週以上の暑さとの予報も出ております。登下校での熱中症が危惧されます。自分の身は自分で守る方法をご家庭で一緒に考えていただきたいと思います。